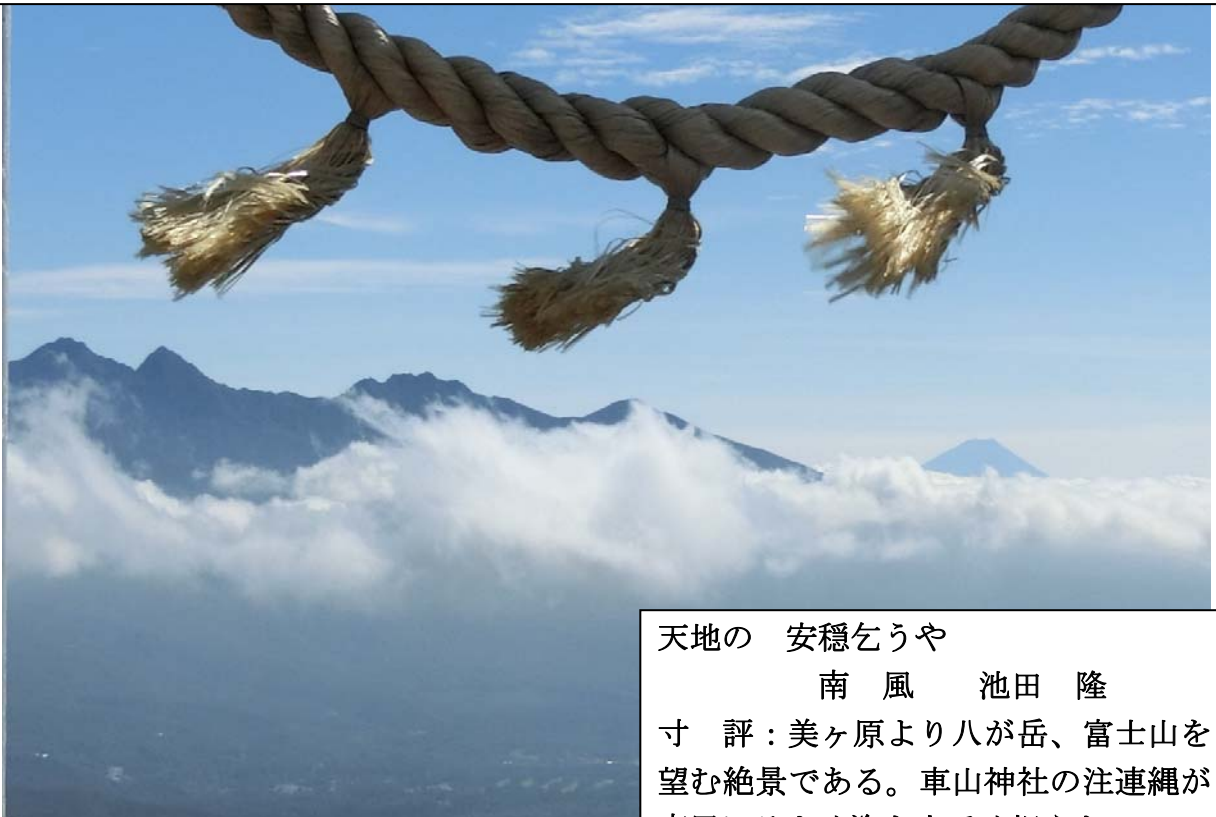


第六十六回フォト句優秀作品（28年10月11日）



天地の 安穩乞うや

南風 池田 隆

寸評：美ヶ原より八が岳、富士山を望む絶景である。車山神社の注連縄が南風にそよぐ姿を上手く捉えた。



振り返り 出て来た穴を

懐かしむ 平尾 富男

寸評：写真も句も不思議な感じのする作品だ。句はネズミの心境を吐露したのか、母親に対する憧憬なのか？





粒ぞろいこれが本当の  
真珠なら 矢澤 正二  
寸 評：茸に無数の水滴が付  
いている珍しい写真だ。白と  
黒のコントラストも抜群。  
もう少し洒落た句が付けばと  
惜しまれるところ。



コンサート 余韻と帰る  
みなとまち 安藤 晃二  
寸 評：スナップなので仕方が無い  
が画面の整理が必要。

## 付け句



今月は中村さんの出題。紫の花々にカバマダラという茶色の翅の蝶が止まっている写真です。

- |                            |       |
|----------------------------|-------|
| 1) 色街を茶羽織で往く <b>ダンディズム</b> | 中村 晃也 |
| 2) 美味しい汁吸ってる <b>現場隠し撮り</b> | 三 春   |
| 3) <b>密やかに</b> 蝶の訪う昼下がり    | 松田 昌康 |
| 4) <b>秋裕</b> 粋な姐御の裾模様      | 中村 晃也 |

寸 評：

- 1) 蝶の翅の色が茶色なので、茶羽織としたが、茶羽織とは茶人の着る地味だが洒落た羽織のことを言う。**ダンディズム**という措辞が良かった。
- 2) 誰にも見られないように一人だけうまい汁を吸っても、どこからか週刊誌の**スクープ写真**のように証拠撮影を撮られてしまう。
- 3) 他人が忙しく働いているときにこっそりと訪れ、昼下がりの情事を企む、そういう人になりたいという怪しげなロマンに満ち溢れている句だ。
- 4) 蝶と花を巧みにあしらった着物の裾模様を連想した。着る人は当然粋な姐御に違いないと踏んだのだろう。季語が適切である。

# 写真につられて蝶とか花とか直接的、説明的な言葉を使用しないのがコツです。